

科目名	解剖生理学 I		時期		時間	単位
担当教員	笹川 一郎		1年次	前期	30時間	1単位
科目設定理由	最近の医学と医療技術は急速に進化・発展し、社会とのかかわりはきわめて密接になり、医療に対する期待とニーズも大きくなってきている。解剖学と生理学は、人体の「構造」と「機能」を学ぶ学問であり、看護師を含む医療専門職の教育においては最も重要な基盤（基礎）となるものである。そこで、個人の健康にかかわる人体についての知識や理解を深め、解剖学と生理学を融合させて人体の構造と機能を学習し、看護実践に活かすために当該科目を設定した。					
学習目標	人体の発生と構成する単位（骨格系、筋系、消化器系、血液、心臓血管系、リンパ系）を学び、人体の構造を理解する					
授 業 計 画						
回数	項目	内 容			備 考	
1～5	7章 からだの支持と運動	1 からだの骨格と筋 2 骨組織と筋組織			講義	
6～10	2章 栄養の消化と吸収	1 消化器系の構造と機能			講義	
11～14	4章 血液の循環とその調節	1 循環器系の構造と機能			講義	
15	試験（90分）	まとめ				
使用テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学		坂井 建雄 他		医学書院	
参考図書・資料等						
評価方法	筆記試験等から総合的に判断する					

科目名	解剖生理学Ⅱ		時期		時間	単位
担当教員	石山 巳喜夫		1年次	前期	30時間	1単位
科目設定理由	最近の医学と医療技術は急速に進化・発展し、社会とのかかわりはきわめて密接になり、医療に対する期待とニーズも大きくなってきている。解剖学と生理学は、人体の「構造」と「機能」を学ぶ学問であり、看護師を含む医療専門職の教育においては最も重要な基盤（基礎）となるものである。そこで、個人の健康にかかわる人体についての知識や理解を深め、解剖学と生理学を融合させて人体の構造と機能を学習し、看護実践に活かすために当該科目を設定した。					
学習目標	人体の発生と構成する単位（呼吸系、泌尿器系、内分泌系、生殖器系）を学び、人体の構造を理解する					
授 業 計 画						
回数	項目	内 容			備 考	
1～4	3章 呼吸と血液のはたらき	1 呼吸器系の構造と機能			講義	
5～7	5章 体液の調節と尿の生成	1 泌尿器系の構造と機能			講義	
8～11	6章 内臓機能の調節	1 内分泌系の構造と機能 2 ホルモン			講義	
12～14	10章 生殖・発生と老化のしくみ	1 生殖器系の構造と機能			講義	
15	試験（90分）	まとめ				
使用テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学		坂井 建雄 他		医学書院	
参考図書・資料等						
評価方法	筆記試験等から総合的に判断する					

科目名	解剖生理学Ⅲ		時期		時間	単位
担当教員	影山 幾男		1年次	後期	30時間	1単位
科目設定理由	最近の医学と医療技術は急速に進化・発展し、社会とのかかわりはきわめて密接になり、医療に対する期待とニーズも大きくなってきている。解剖学と生理学は、人体の「構造」と「機能」を学ぶ学問であり、看護師を含む医療専門職の教育においては最も重要な基盤（基礎）となるものである。そこで、個人の健康にかかわる人体についての知識や理解を深め、解剖学と生理学を融合させて人体の構造と機能を学習し、看護実践に活かすために当該科目を設定した。					
学習目標	人体の発生と構成する単位（神経系、特殊感覚、皮膚）を学び、人体の構造を理解する					
授 業 計 画						
回数	項目	内 容			備 考	
1～9	8章 情報の受容と処理	1 脳と脊髄、末梢神経系 2 自律神経系 3 神経組織 4 特殊感覚器の構造と機能			講義	
10～12	9章 外部環境からの防御	1 生体防御機構			講義	
13～14	系統解剖学実習	1 解剖体、諸臓器の観察			演習	
15	試験（90分）	まとめ				
使用テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学	坂井 建雄 他		医学書院		
	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進②病態生理学	田中 越郎		医学書院		
参考図書・資料等	新版 体の地図帳	佐藤 達夫		講談社		
評価方法	筆記試験等から総合的に判断する					

科目名	生物と生命論		時期		時間	単位
担当教員	中村 雅彦		1年次	前期	30時間	1単位
科目設定理由	看護は人間のいのちを重んじる。そのため、医療チームの一員である看護師は、診療の目的や方向性、生物・生命現象の一般原理や基礎を理解していなければ、突然の事態に対して適切な判断や処置をすることができない。そこで、生物体としての人を中心とした生命現象と各種器官の機能・進化・環境との関わりに関する基礎的な知識を理解し、「生命」の尊さについて考えることのできる基礎能力を養うため当該科目を設定した。					
学習目標	1 生物の構造と機能の単位が「細胞」であることを理解する 2 人のいのちの活動は「全生物共通の原理」に基づいて進行していることを理解する 3 人の活動は、生態系の中に位置づけられていることを理解する					
授 業 計 画						
回数	項目	内 容				備 考
1	序論	1 生き物とは？				講義
2	細胞	1 細胞の構造と進化				講義
3	消化器系 1	1 胃の機能と進化				講義
4	消化器系 2	1 腸の機能と進化				講義
5	消化器系 3	1 肝臓の機能と進化				講義
6	消化器系 4	1 肝臓の病気				講義
7	循環器系 1	1 心臓の構造と進化				演習
8	循環器系 2	1 血管の種類と構造				講義
9	泌尿器系	1 腎臓の機能と進化				講義
10	骨と筋肉	1 骨と筋肉の機能と進化				講義
11	魚の解剖	1 各器官の観察				講義
12	内分泌系	1 ホルモンと環境ホルモン				講義
13	免疫	1 病原体に対する防御機構				講義
14	生態系	1 生産者、消費者、分解者				講義
15	試験(90分)	まとめ				
使用テキスト	系統看護学講座 基礎分野 生物学		高畑 雅一 他			医学書院
参考図書・資料等						
評価方法	筆記試験、レポート					

科目名	栄養学		時期		時間	単位
担当教員	野口 孝則		1年次	前期・後期	30時間	1単位
科目設定理由	患者の生活という面を視野におかなければならない看護師は、「栄養学」と「栄養食事療法」を学び、保健医療福祉チームの一員として栄養士と連携・協働していく必要がある。そこで、栄養と健康、栄養と疾病・障害の関係と栄養によって健康を維持・向上させる方法を総合的に学ぶため当該科目を設定した。					
学習目標	1 人間にとって栄養の意義を理解する 2 健康の保持増進に必要な栄養素について理解する 3 臨床栄養について理解する					
授 業 計 画						
回数	項目	内容				備考
1~2	【栄養学】 人間栄養学	1 栄養を学ぶということ 2 栄養素の種類とはたらき (1)糖質 (2)脂質 (3)タンパク質 (4)ビタミン (5)ミネラル				講義
3	食事と食品	1 人間の食事と食文化 2 日本人の食事摂取基準 3 食品と栄養素 4 食品群とその分類法				講義
4	栄養ケアマネジメント	1 チームアプローチと栄養・ケアマネジメント 2 栄養スクリーニング、栄養アセスメント 3 栄養ケア計画の実施、評価				講義
5	ライフステージと臨床栄養	1 ライフステージにおける栄養 2 チームで取り組む栄養管理 3 栄養補給法、病院食、経腸栄養製品、静脈栄養剤				講義
6	健康づくりと食生活	1 食生活の改善への施策 2 食の安全性と表示 3 医療保険制度・介護保険制度と食事				講義
7~8	【栄養食事療法】 栄養食事療法の実際 ①	1 栄養食事療法の原則 2 医療・福祉の場における栄養食事療法 3 症状を持つ患者の栄養食事療法の実際 (1)ショック (2)発熱・低体温 (3)脱水・浮腫 (4)やせ・過体重				講義
9~12	栄養食事療法の実際 ②	1 疾患別の栄養食事療法の実際 (1)呼吸器疾患患者 (2)循環器疾患患者 (3)消化器疾患患者 (4)腎・泌尿器疾患患者 (5)血液疾患患者 2 褥瘡のある患者の栄養食事療法の実際 3 がん患者の栄養食事療法の実際				講義
13~14	食事療法の実際	1 献立作成・調理・試食				講義・演習
15	試験 (90分)	まとめ				
使用テキスト	系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能[3] 栄養学		小野 章史 他		医学書院	
	系統看護学講座 別巻 栄養食事療法		足立 香代子 他		医学書院	
	新食品成分表 Foods				東京法令出版	
参考図書・資料等						
評価方法	筆記試験					

科目名	生化学		時期		時間	単位
担当教員	野口 孝則		1年次	後期	15時間	1単位
科目設定理由	生物の体はひとときも休まず様々な化学反応を営む「代謝」で維持されている。看護師として対象の健康管理にかかわるためには、体内での正常なしくみや機能の破綻した状態を正しく理解する必要がある。そこで、疾病の成り立ちを知る前提となる代謝のしくみや遺伝子の情報について学ぶため当該科目を設定した。					
学習目標	1 糖質・脂質・タンパク質の代謝の概要とビタミンの役割を理解する 2 体液のホメオスタシスについての概要を理解する 3 酵素の学習を通して「核酸とタンパク質の合成」について理解する					
授 業 計 画						
回数	項目	内 容			備 考	
1	代謝とは	1 生命の単位としての「細胞」 2 生体を構成する物質			講義	
2	酵素とビタミン	1 遺伝情報から作られる酵素 2 代謝における酵素の役割 3 酵素とビタミンの関係			講義	
3~4	糖質代謝	1 糖質はエネルギー源 2 デンプンとグリコーゲンの消化 3 細胞内呼吸の概説と解糖系 4 クエン酸回路・電子伝達系（血糖調整）			講義	
5	脂質代謝	1 脂質の消化とリポタンパク質 2 脂肪酸の分解とATP合成（脂肪酸の合成とケトン体）			講義	
6	アミノ酸・ヌクレオチドの代謝	1 タンパク質・アミノ酸の分解 2 アミノ基転移反応と尿素回路（アミノ酸代謝異常） 3 ヌクレオチドの合成と分解			講義	
7	体液	1 体液の組成と酸・塩基平衡 2 無機塩類の働き			講義	
8	試験（45分）					
使用テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[2] 生化学		三輪 一智 中 恵一		医学書院	
参考図書・資料等						
評価方法	筆記試験					

科目名	病理学		時期	時間	単位
担当教員	岡田 康男・大野 淳也		1年次	前期・後期	30時間 1単位
科目設定理由	<p>病理学とは、「病気の理（ことわり）」を考える学問、つまり病気の原因、病気の発症・進展の過程、患者に対する影響などを明らかにする学問であり、看護師として働いていくためにはそれぞれの病気について本質から理解していくことが重要である。現代において、医師や看護師が行う医療行為は、個人的な考えや習慣、経験に基づいて行うのではなく、科学的な根拠に基づいて行うことが求められており、病理学はまさに臨床医学に科学的根拠を与える重要な土台となるものである。そこで、臓器の違いを超えて共通する病気の原因やなりたち、それぞれの臓器に生じる疾患の種類・分類、発生原因、進行過程などの知識を養うため当該科目を設定した。</p>				
学習目標	<p>1 各臓器に共通してみられる細胞・組織の構造と機能を理解する（総論） 2 各器官に起こる疾病の原因と進行過程、診断・治療の特徴を理解する（各論）</p>				
授 業 計 画					
回数	項目	内 容			備 考
1～8	【病理学総論】 病理学で学ぶこと	<p>1 病理学とは 2 看護と病理学 3 病気の原因（内因・外因）</p>			講義
	臓器の違いを超えて共通する病気の原因やなりたち	<p>1 細胞・組織の障害と修復 2 循環障害 3 炎症と免疫、移植と再生医療 4 感染症 5 代謝障害 6 老化と死 7 先天障害と遺伝子異常 8 腫瘍</p>			講義
9～14	【病理学各論】 それぞれの臓器に生じる疾患の種類・分類、発生原因、進行過程、診断・治療	<p>1 循環器系の疾患 2 血液・造血器系の疾患 3 呼吸器系の疾患 4 消化器系の疾患 5 腎・泌尿器、生殖器系および乳腺の疾患 6 内分泌系の疾患 7 脳・神経・筋肉系の疾患 8 骨・関節系の疾患 9 眼・耳・皮膚の疾患 10 病理診断の実際</p>			講義
15	試験（90分）	まとめ			
使用テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進① 病理学		大橋 健一 他	医学書院	
参考図書・資料等					
評価方法	筆記試験				

科目名	病態学 I		時期		時間	単位
担当教員	鈴木 和夫・沼田 尊功 田邊 直仁・関 義信・石黒 卓朗		1 年次	後期	30時間	1 単位
科目設定理由	患者の看護を適切に行うには、看護援助の知識に加え、その患者の身体にどのような異常が生じているのか、またその異常が患者にどのような苦痛や障害を引き起こしているのかを理解しなければならない。そして、損なわれた生理機能を回復したり、失われた機能を補填するにはどうすればよいかを知り、治療や援助にどうつなげるかを考える根拠を知ることが重要である。そこで、解剖生理学で学習した正常な生理機能の知識を踏まえ、疾患により障害された部位への影響と疾患により発生する症状のメカニズム、検査・診断・治療について学ぶため当該科目を設定した。					
学習目標	疾患により障害された呼吸器系、循環器系、血液・造血器系への影響と、疾患により発生する症状のメカニズム、検査・診断・治療について理解する					
授 業 計 画						
回数	項目	内 容				備 考
1~2	呼吸器疾患の病態・ 診断・検査・治療①	1 気管支炎、肺炎、間質性肺炎、胸膜炎 2 気管支喘息 3 COPD 4 睡眠時無呼吸症				講義 (鈴木)
3~5	呼吸器疾患の病態・ 診断・検査・治療②	1 肺循環障害 (肺高血圧、肺塞栓症) 2 肺結核 3 気胸 4 腫瘍 (肺がん、中皮腫)				講義 (沼田)
6~10	循環器疾患の病態・ 診断・検査・治療	1 心臓の疾患の病態と診断・治療 (1) 先天性心疾患 (2) 虚血性心疾患 (3) 心筋症 (4) 心タンポナーデ (5) 不整脈 (6) 炎症性疾患 (7) 弁膜症 2 血管系の疾患の病態と診断・治療 (1) 大動脈瘤、大動脈解離 (2) 閉塞性動脈硬化症 (3) 下肢静脈瘤・深部静脈血栓症 3 血圧異常の病態と診断・治療 (1) 動脈硬化症 (2) 本態性高血圧 (3) 二次性高血圧 (4) 起立性低血圧				講義 (田邊)
11~12	血液・造血器系疾患 の病態・診断・検 査・治療①	1 貧血 2 出血性疾患 (TTP, ITP, DIC)				講義 (関)
13~14	血液・造血器系疾患 の病態・診断・検 査・治療②	1 白血球減少症 2 腫瘍 (白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫)				講義 (石黒)
15	試験 (90分)					
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [2] 呼吸器			浅野 浩一郎 他	医学書院	
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [3] 循環器			吉田 俊子 他	医学書院	
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [4] 血液・造血器			飯野 京子 他	医学書院	
参考図書・資料等						
評価方法	筆記試験					



科目名	病態学Ⅱ		時期		時間	単位
担当教員	小林 正明・設楽 兼司・丸山 弦 牧野 邦比古・相場 豊隆・上村 朋子		1年次	後期	30時間	1単位
科目設定理由	患者の看護を適切に行うには、看護援助の知識に加え、その患者の身体にどのような異常が生じているのか、またその異常が患者にどのような苦痛や障害を引き起こしているのかを理解しなければならない。そして、損なわれた生理機能を回復したり、失われた機能を補填するにはどうすればよいかを知り、治療や援助にどうつなげるかを考える根拠を知ることが重要である。そこで、解剖生理学で学習した正常な生理機能の知識を踏まえ、疾患により障害された部位への影響と疾患により発生する症状のメカニズム、検査・診断・治療について学ぶため当該科目を設定した。					
学習目標	疾患により障害された消化器系、脳・神経系、運動器系への影響と、疾患により発生する症状のメカニズム、検査・診断・治療について理解する					
授 業 計 画						
回数	項目	内 容				備 考
1~2	上部消化管の疾患の病態と診断・治療	1 炎症性疾患 (1)逆流性食道炎 (2)急性・慢性胃炎 (3)ヘリコバクターピロリ感染症 2 潰瘍性疾患 (胃潰瘍、十二指腸潰瘍) 3 腫瘍 (食道がん、胃がん)				講義 (小林)
3~4	下部消化管の疾患の病態と診断・治療	1 炎症性疾患 (1)潰瘍性大腸炎 (2)クローン病 (3)虫垂炎 (4)痔瘻 2 イレウス 3 腫瘍 (大腸ポリープ、結腸がん、直腸がん)				講義 (設楽)
5~6	肝臓・胆嚢・膵臓の疾患の病態と診断・治療	1 炎症性疾患 (1)肝炎 (2)胆管炎 (3)膵炎 2 肝硬変 3 脂肪肝、アルコール性肝炎 4 胆石症 5 腫瘍 (肝がん、胆嚢がん、胆管がん、膵がん)				講義 (丸山)
7	腹壁・腹膜・横隔膜の疾患の病態と診断・治療	1 鼠径ヘルニア 2 腹膜炎 3 横隔膜ヘルニア				講義 (設楽)
8~10	神経系の疾患の病態と診断・治療	1 認知症 2 ギランバレー症候群 3 圧迫神経障害、顔面神経麻痺、自律神経失調症 4 筋ジストロフィー 5 変性疾患 (1)パーキンソン病 (2)ALS 6 脱髄疾患 (多発性硬化症) 7 感染症 (1)脳炎 (2)髄膜炎				講義 (牧野)
11~12	脳疾患の病態と診断・治療	1 脳血管障害 (1)脳出血 (2)脳梗塞 (3)くも膜下出血 2 頭蓋内圧亢進症 3 頭部外傷、脊髄損傷 4 機能的疾患 (てんかん) 5 腫瘍 (脳腫瘍)				講義 (相場)
13~14	骨・関節の疾患の病態と診断・治療	1 骨折、脱臼、捻挫 2 骨粗鬆症 3 腫瘍 (骨肉腫) 4 変形性関節症、腰痛症 5 炎症性疾患 (1)骨・骨髄炎 (2)関節炎 6 関節リウマチ				講義 (上村)
15	試験 (90分)					
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5] 消化器			松田 明子 他		医学書院
	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論			北島 政樹 他		医学書院
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[7] 脳・神経			井手 隆文 他		医学書院
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[10] 運動器			田中 栄 他		医学書院
参考図書・資料等						
評価方法	筆記試験					

科目名	病態学Ⅲ		時期		時間	単位
担当教員	佐野 浩齋・伊藤 聡・上野 光博 宮島 憲生・金子 耕司・境原 三津夫		1年次	後期	30時間	1単位
科目設定理由	患者の看護を適切に行うには、看護援助の知識に加え、その患者の身体にどのような異常が生じているのか、またその異常が患者にどのような苦痛や障害を引き起こしているのかを理解しなければならない。そして、損なわれた生理機能を回復したり、失われた機能を補填するにはどうすればよいかを知り、治療や援助にどうつなげるかを考える根拠を知ることが重要である。そこで、解剖生理学で学習した正常な生理機能の知識を踏まえ、疾患により障害された部位への影響と疾患により発生する症状のメカニズム、検査・診断・治療について学ぶため当該科目を設定した。					
学習目標	疾患により障害された内分泌・代謝系、免疫系、腎・泌尿器系、女性生殖器系への影響と疾患により発生する症状のメカニズム、検査・診断・治療について理解する					
授 業 計 画						
回数	項目	内 容			備 考	
1~3	内分泌系・代謝異常の疾患の病態と診断・治療	1 内分泌系（間脳・下垂体疾患、甲状腺疾患〔甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症〕、副甲状腺〔上皮小体〕疾患、副腎皮質・髄質疾患、腫瘍〔下垂体腫瘍、甲状腺がん〕 2 代謝異常（メタボリックシンドローム、肥満症、糖尿病、脂質異常、高尿酸血症、痛風、ビタミン欠乏症）			講義（佐野）	
4~5	免疫機能疾患の病態と診断・治療	1 自己免疫疾患（SLE、関節リウマチ、シェーグレン症群など） 2 アレルギー性疾患（アナフィラキシーショックなど） 3 免疫低下（敗血症、HIV）			講義（伊藤）	
6~9	腎疾患の病態と診断・治療	1 水・電解質の異常（脱水、浮腫、低ナトリウム血症、高カリウム血症） 2 酸塩基平衡の異常（アシドーシス、アルカローシス） 3 腎炎、慢性腎臓病、腎盂腎炎 4 腎不全			講義（上野）	
10~11	泌尿器疾患の病態と診断・治療	1 膀胱炎、前立腺炎、前立腺肥大症 2 腫瘍（尿管がん、膀胱がん、前立腺がん、腎がん） 3 腎結石、尿路結石、排尿障害過活動膀胱（腹圧性尿失禁、夜尿症）			講義（宮島）	
12	女性生殖器疾患の病態と診断・治療（乳腺）	1 乳腺の疾患（乳腺炎、乳腺症） 2 腫瘍（乳がん）			講義（金子）	
13~14	女性生殖器疾患の病態と診断・治療（子宮・卵巣疾患）	1 女性生殖器の疾患（子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣のう腫、月経異常、更年期障害、不妊症） 2 腫瘍（子宮体がん、子宮頸がん、卵巣がん）			講義（境原）	
15	試験（90分）					
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [6] 内分泌・代謝			黒江 ゆり子 他	医学書院	
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [11] アレルギー・膠原病・感染症			岩田 健太郎 他	医学書院	
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [8] 腎・泌尿器			大東 貴志 他	医学書院	
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [9] 女性生殖器			末岡 浩 他	医学書院	
参考図書・資料等						
評価方法	筆記試験					

科目名	病態学Ⅳ		時期		時間	単位
担当教員	仲 栄美子・松野 正知・小川 淳 石川 威・境原 三津夫		2年次	前期 後期	30時間	1単位
科目設定理由	患者の看護を適切に行うには、看護援助の知識に加え、その患者の身体にどのような異常が生じているのか、またその異常が患者にどのような苦痛や障害を引き起こしているのかを理解しなければならない。そして、損なわれた生理機能を回復したり、失われた機能を補填するにはどうすればよいかを知り、治療や援助にどうつなげるかを考える根拠を知ることが重要である。そこで、解剖生理学で学習した正常な生理機能の知識を踏まえ、疾患により障害された部位への影響と疾患により発生する症状のメカニズム、検査・診断・治療について学ぶため当該科目を設定した。					
学習目標	1 小児の疾患における症状のメカニズム、検査、診断、治療について理解する 2 妊娠・分娩・産褥の生理と異常について理解する					
授 業 計 画						
回数	項目	内 容				備 考
1~2	新生児疾患の症状、メカニズム、検査、診断、治療	1 低出生体重児 2 分娩損傷 3 新生児仮死 4 高ビリルビン血症 5 新生児感染症				講義 (仲)
3	小児疾患の症状、メカニズム、検査、診断、治療①	1 呼吸器疾患（肺炎、マイコプラズマなど） 2 免疫疾患、アレルギー性疾患、リウマチ性疾患（アレルギー性疾患：気管支喘息、食物アレルギーなど）				講義 (松野)
4	小児疾患の症状、メカニズム、検査、診断、治療②	1 血液・造血器疾患（貧血、突発性血小板減少性紫斑病など） 2 悪性新生物（白血病など）				講義 (小川)
5~8	小児疾患の症状、メカニズム、検査、診断、治療③	1 循環器疾患（先天性心疾患、ファロー四徴症、川崎病など） 2 消化器疾患（乳児下痢症、腸重積など） 3 腎・泌尿器及び生殖器疾患（ネフローゼ症候群など） 4 神経疾患（けいれん性疾患：熱性けいれんなど） 5 代謝疾患（糖尿病など） 6 内分泌疾患（下垂体疾患：低身長症など） 7 小児の感染症（麻疹、百日咳など）				講義 (石川)
9~14	妊娠・分娩・産褥の生理と異常	1 正常妊娠（胎児の発育と生理、妊婦の生理的变化など） 2 正常分娩（分娩の生理、分娩の三大要素など） 3 正常産褥（産褥の復古現象、乳汁分泌など） 4 ハイリスク妊娠・異常妊娠（妊婦と胎児の異常など） 5 異常分娩（産道、娩出力の異常、異常出血など） 6 異常産褥（子宮復古不全、産褥感染症など）				講義 (境原)
15	試験（90分）					
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論			黒江 ゆり子 他		医学書院
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [2] 母性看護学各論			岩田 健太郎 他		医学書院
参考図書・資料等						
評価方法	筆記試験					

科目名	病態学Ⅴ		時期	時間	単位
担当教員	有田正知・阿部亮・菊地 佑・遠藤太郎 竹之内辰也・吉野秀昭・本田耕平・高田正典		2年次	前期・後期	30時間 1単位
科目設定理由	患者の看護を適切に行うには、看護援助の知識に加え、その患者の身体にどのような異常が生じているのか、またその異常が患者にどのような苦痛や障害を引き起こしているのかを理解しなければならない。そして、損なわれた生理機能を回復したり、失われた機能を補填するにはどうすればよいかを知り、治療や援助にどうつなげるかを考える根拠を知ることが重要である。そこで、解剖生理学で学習した正常な生理機能の知識を踏まえ、疾患により障害された部位への影響と疾患により発生する症状のメカニズム、検査・診断・治療について学ぶため当該科目を設定した。				
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 精神の健康障害や精神症状によって影響された患者の状態を理解する</li> <li>2 精神の健康障害の検査、診断、治療について理解する</li> <li>3 現代社会における自殺の現状と対策について理解する</li> <li>4 疾患により障害された皮膚系、眼系、耳鼻咽喉系、歯・口腔系への影響と疾患により発生する症状のメカニズム、検査・診断・治療について理解する</li> </ol>				
授 業 計 画					
回数	項目	内 容			備 考
1~3	代表的な精神疾患/障害①	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 診断と疾病分類</li> <li>2 代表的な疾患と障害 (1)統合失調症 (2)気分(感情)障害</li> </ol>			講義 (有田)
4~5	代表的な精神疾患/障害②	(3)神経症性障害、ストレス関連性障害および身体表現性障害 (4)生理的障害および身体要因に関連した行動症候群 (5)器質性精神障害 (6)精神作用物質による精神および行動の障害			講義 (阿部)
6~7	主な治療法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 薬物療法</li> <li>2 電気けいれん療法、修正型電気けいれん療法</li> <li>3 精神療法</li> </ol>			講義 (菊地)
8~9	小児・思春期・青年期の精神疾患/障害と治療	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 代表的な疾患/障害と治療 (1)神経発達障害群(自閉症スペクトラム症、注意欠陥多動症) (2)パーソナリティ障害</li> </ol>			講義 (遠藤)
10	自殺と自殺対策	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 自殺の現状</li> <li>2 自殺対策</li> </ol>			講義 (遠藤)
11	皮膚科疾患の病態・診断・治療・検査	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 悪性黒色腫、皮膚がん</li> <li>2 湿疹(蕁麻疹、アトピー性皮膚炎、接触性皮膚炎)</li> <li>3 帯状疱疹</li> <li>4 蜂窩織炎</li> </ol>			講義 (竹之内)
12	眼疾患の病態・診断・治療・検査	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 白内障、緑内障 2 網膜剥離 3 網膜症</li> </ol>			講義 (吉野)
13	耳鼻科疾患の病態と診断・治療	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 聴覚障害(難聴、メニエール病)</li> <li>2 咽頭炎、扁桃炎、舌がん、咽頭がん</li> <li>3 花粉症(アレルギー性鼻炎)</li> </ol>			講義 (本田)
14	歯・口腔・顎関節疾患の病態と診断・治療	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 歯周病</li> <li>2 う歯</li> </ol>			講義 (高田)
15	試験(90分)				
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 [1] 精神看護の基礎		武井 麻子 他	医学書院	
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 [2] 精神看護の展開		武井 麻子 他	医学書院	
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[12] 皮膚		佐藤 博子 他	医学書院	
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[13] 眼		大鹿 哲郎 他	医学書院	
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[14] 耳鼻咽喉		小松 浩子 他	医学書院	
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[15] 歯・口腔		渋谷 絹子 他	医学書院	
参考図書・資料等					
評価方法	筆記試験				

科目名	薬理学		時期		時間	単位
担当教員	若林 広行		1年次	前期	30時間	1単位
科目設定理由	現代の高度化した医療ではチーム医療が重視されており、薬物治療でも多職種連携は非常に重要である。患者に接する時間・機会が最も多い看護師には、疾患の理解と共に薬物の作用や副作用、投与時の取り扱い上の注意点などを十分に理解し、医薬品の適正使用と医療事故の防止に努めることが求められている。また、薬剤に関する知識は基礎教育の間だけではなく、医療者である限り生涯にわたり学び続けていく必要がある。そこで、薬物療法における看護師の役割と薬理学の基礎知識ならびに薬物治療に用いられる薬剤についての幅広い知識を修得するために当該科目を設定した。					
学習目標	1 各種疾患の全体像を把握し、その薬物治療の方針を理解しながら適応される薬剤の作用機序ならびに副作用などについて理解する 2 治療に用いられる薬剤について、その適正使用について理解する					
授 業 計 画						
回数	項目	内 容				備 考
1	薬理学総論	1 薬理学を学ぶにあたって (1)薬物による病気の治療 (2)薬理学とはなにか 2 薬理学の基礎知識 (1)薬が作用するしくみ(薬力学) (2)薬の体内挙動(薬物動態学) (3)薬物相互作用 (4)薬効の個人差に影響する因子 (5)薬物使用の有益性と危険性 (6)薬と法律 (7)薬の名前(一般名、添付文書、薬の辞事典、医薬品集)				講義
2~4	薬理学各論①	1 自律神経系に作用する薬 2 心臓・血管系に作用する薬 3 血液・造血系に作用する薬 4 呼吸器系に作用する薬 5 消化器系に作用する薬 6 腎臓・泌尿器系に作用する薬				講義
5~7	薬理学各論②	1 内分泌・代謝系に作用する薬 2 免疫・アレルギー系に作用する薬 3 骨運動器系に作用する薬 4 精神・神経系に作用する薬 5 皮膚・感覚器系に作用する薬 6 抗炎症薬・鎮痛薬 7 抗がん薬				講義
8~14	疾患の薬物治療	1 精神・神経系疾患の薬物治療と薬剤 2 循環器・呼吸器疾患の薬物治療と薬剤 3 消化器疾患の薬物治療と薬剤 4 腎・泌尿器疾患の薬物治療と薬剤 5 代謝・内分泌・血液・免疫疾患の薬物治療と薬剤 6 生殖器・産婦人科疾患の薬物治療と薬剤 7 眼科・皮膚科・耳鼻科疾患の薬物治療と薬剤				講義
15	試験(90分)					
使用テキスト	看護学テキストNiCE 薬理学	荻田喜代一、首藤誠 編集				南江堂
	わかりやすい疾患と処方薬の解説 (病態・薬物治療編)	「わかりやすい疾患と処方薬の解説」編集企画委員会				アークメディア
参考図書・資料等	はじめる!つかえる!看護のための薬理学	時政 孝行				南山堂
評価方法	筆記試験					

科目名	微生物学	時期		時間	単位
担当教員	西山 晃史	1年次	前期	30時間	2単位
科目設定理由	微生物のなかには食物の腐敗や、健康と生命を脅かす感染症を引き起こすものがあるが、微生物は有機物を分解して地球の環境を美しく保つなど重要な役割を担っている。病原微生物にうまく対処するためには相手の正体を知り、それを迎え撃つ人間の身体の守りの仕組みを理解することが不可欠である。また、医療施設には感染源となる患者と、高齢者や基礎疾患をもつ感染しやすい別の患者が同一空間に存在し、医療従事者が媒介感染を起こさないための知識と技術、そして細心の注意と遵守が求められている。そこで、目に見えない病原微生物を「見える化」する能力を養うため当該科目を設定した。				
学習目標	1 微生物の特徴と生体に及ぼす影響を理解する 2 感染症を理解し、その予防と治療に必要な基礎知識を習得する 3 感染症の最新動向について説明できる				
授 業 計 画					
回数	項目	内 容			備 考
1~2	微生物学の基礎と総論	1 現在の感染症動向 2 微生物の分類と構造・性質			講義
3~4	おもな病原微生物（1）	1 グラム陽性細菌と感染症			講義
5~6	おもな病原微生物（2）	1 グラム陰性細菌と感染症			講義
7~8	おもな病原微生物（3）	1 マイコプラズマと感染症 2 リケッチアと感染症 3 クラミジアと感染症 4 その他病原細菌と感染症			講義
9~10	おもな病原微生物（4）	1 病原真菌と真菌感染症 2 DNAウイルスと感染症			講義
11~12	おもな病原微生物（5）	1 RNAウイルスと感染症			講義
13~14	感染と感染防御	1 院内感染・日和見感染 2 免疫応答 3 アレルギー 4 感染症の予防			講義
15	試験（90分）	1 筆記試験 2 試験の解説と復習			
使用テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[4] 微生物学	南嶋 洋一 他		医学書院	
参考図書・資料等					
評価方法	筆記試験				

科目名	関係法規		時期		時間	単位
担当教員	専任教員・事務長・秋山 政人・保健師 薬剤師・十日町市職員・澤野 崇		2年次	前期	30時間	2単位
科目設定理由	近年、人口の急速の高齢化と著しい出生率の低下や、保健医療を取り巻く環境の変化などにより、これらに的確に対応していくための新法の制定や法令の改正が頻繁に行われている。このような状況の中で、看護職が質の高い看護を提供するためには、高い教養と専門的知識・技能を身につけるとともに、わが国の保健医療福祉に関する諸制度の概要とそれを規定する諸法令を理解しておくことが必要である。そこで、看護に携わる者が、人々の健康を守り、与えられた職責を正しく遂行するために、看護関係法を理解できるよう当該科目を設定した。					
学習目標	1 人間の健康の回復、保持・増進に関する法を理解する 2 法規に規定されている看護職の資格・業務・責任について理解する					
授 業 計 画						
回数	項目	内 容				備 考
1	法の概念	1 法の概念・法の分類 2 衛生法 3 厚生行政のしくみ				講義 (専任教員)
2~4	看護法	1 保健師助産師看護師法 2 看護師等の人材確保の促進に関する法律				講義 (専任教員)
5	医事法	1 医療法 2 医療関係資格法 3 保健医療福祉資格法 4 医療を支える法				講義 (事務長)
6	医事法（臓器移植法）	1 医療を支える法（移植医療に関する法）				講義 (秋山)
7~8	保健衛生法	1 共通保健法 2 分野別保健法 3 感染症に関する法 4 食品に関する法				講義 (保健師)
9~10	薬務法	1 薬事一般に関する法律 2 人などの組織を用いた医療関連法 3 薬害被害者の救済など 4 麻薬・毒薬など				講義 (薬剤師)
11	環境衛生法・環境法	1 営業・環境整備 2 環境保全の基本法・公害防止の法・自然保護法				講義 (十日町市)
12	社会保険法	1 費用保障 2 年金・手当				講義 (澤野)
13	福祉法	1 福祉の基盤 2 児童分野・高齢分野・障害分野				講義 (十日町市)
14	労働法と社会基盤整備	1 労働法 2 社会基盤整備など				講義 (澤野)
15	試験（90分）					
使用テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[4] 看護関係法令		森山 幹夫		医学書院	
	看護六法		看護行政研究会		新日本法規出版	
参考図書・資料等						
評価方法	筆記試験					

科目名	公衆衛生		時期		時間	単位
担当教員	堀井 淳一・北村 香織・平澤 則子		2年次	前期	30時間	2単位
科目設定理由	公衆衛生学は生活者の健康の維持・増進を目的に、常に個々の住民の要請を捉えつつ、広く地域に対する政策から実施に向けた活動をするための実践的学問であり、公衆衛生の活動には多職種連携が不可欠である。そこで、21世紀の健康社会実現に向けた保健・医療・福祉、そして環境の総合的な理解と、身近にいる生活者の健康の保持・増進のための活動が理解できるよう当該科目を設定した。					
学習目標	人々の健康を維持するための公衆衛生活動の特性と組織的な保健活動について理解する					
授 業 計 画						
回数	項目	内容			備考	
1	公衆衛生を学ぶにあたって 公衆衛生のエッセンス①	1 公衆衛生とはなにか 2 世界の公衆衛生の歴史			講義 (堀井)	
2~9	公衆衛生のエッセンス②	1 日本における公衆衛生 ～はじまりと発展、戦後の展開～ (1) プライマリヘルスケア (2) ヘルスプロモーション			講義 (北村)	
	公衆衛生の活動対象	1 社会集団をとらえる視座 2 社会集団の中にある特定集団				
	公衆衛生のしくみ	1 政策展開 2 国と地方自治体の役割 3 専門職の役割 4 住民との協働				
	環境と健康	1 地球環境と健康 2 生活環境と健康				
	国際保健  疫学	1 国際保健の共通目標 ～ミレニアム開発目標 (MDGs)～ 1 人々の健康を守る 2 公衆衛生の場での疫学 集団を捉える～原因分析～対策を計画・実施				
10~14	地域保健	1 母子保健 2 成人保健・高齢者保健 3 精神保健 4 歯科保健 5 難病支援・障害支援 6 感染症対策			講義 (平澤)	
	学校と保健	1 学校における健康と学校保健				
	職場と健康	1 職場における健康と産業保健				
	健康危機管理	1 健康危機管理				
	災害保健	2 災害保健				
15	試験 (90分)	まとめ				
使用テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[2] 公衆衛生		神山 征峰 他		医学書院	
参考図書・資料等						
評価方法	筆記試験					



科目名	社会福祉		時期		時間	単位
担当教員	小澤 薫・十日町市職員		2年次	前期	30時間	2単位
科目設定理由	人間は、生まれてから死ぬまでの生活において、個人の努力だけでは対応が難しい様々な困難に直面する。そうした困難に対しては看護だけで支えることができないため、社会保障や社会福祉の制度が必要である。人間の健康にかかわる事項に社会の様々な立場からかかわることが期待される看護師にとっては、それらの理解が不可欠である。そこで、現代社会における社会福祉の意義と役割、制度の成り立ちと内容を理解するとともに、保健・医療・福祉の協働の意義を理解するため当該科目を設定した。					
学習目標	1 現代社会における社会福祉の意義・役割を理解し、制度や諸サービスの成りたちと内容についての知識を得る 2 保健・医療・福祉の連携と協働の意義を理解する					
授 業 計 画						
回数	項目	内 容				備 考
1	社会保障制度と社会福祉	1 社会保障制度 2 社会福祉の法制度				講師 (小澤)
2	現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向	1 現代社会の変化 2 社会保障・社会福祉の動向				講師 (小澤)
3~4	医療保障	1 医療保障制度の沿革、構造と体系 2 健康保険と国民健康保険 3 高齢者医療制度 4 保険診療のしくみ 5 公費負担医療、国民医療費				講師 (小澤)
5~6	介護保障	1 介護保険制度創設の背景と介護保障の歴史 2 介護保険制度の概要、課題と展望				講師 (小澤)
7	所得保障	1 所得保障制度のしくみ 2 年金保険制度 3 社会手当、労働保険制度				講師 (小澤)
8~9	公的扶助	1 貧困・低所得問題と公的扶助制度 2 生活保護制度のしくみ 3 低所得者対策 等				講師 (十日町市)
10~11	社会福祉の分野とサービス	1 高齢者福祉 2 障害者福祉 3 児童家庭福祉				講師 (十日町市)
12~13	社会福祉実践と医療・看護	1 社会福祉援助とは 2 個別・集団援助技術 3 間接援助技術と関連援助技術 4 社会福祉援助の検討課題 5 連携の重要性、連携の場面とその方法				講師 (十日町市)
14	社会福祉の歴史	1 福祉史の枠組み 2 前近代・近代の救済の諸相 3 現代社会への構造変化と生活支援 4 戦後の社会福祉の再生				講師 (十日町市)
15	試験 (90分)					
使用テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[3] 社会保障・社会福祉			福田 素生 他		医学書院
参考図書・資料等						
評価方法	筆記試験					